

旅三昧

8

August 2008

特集の旅 世界遺産を訪ねて

〈読み物〉

ひと紀行

廣瀬淡窓

学芸員のこの1点

安曇野ちひろ美術館

趣味いろいろ

スケッチ

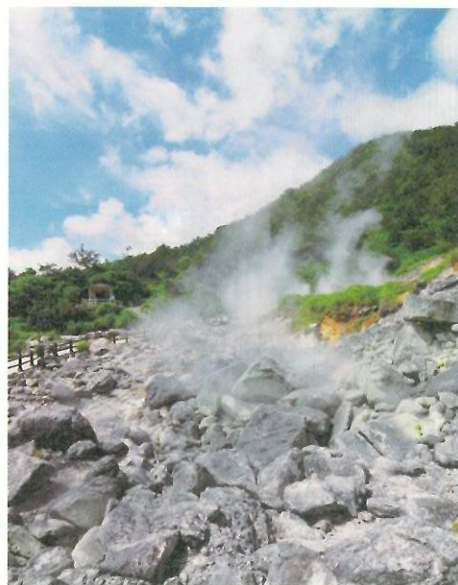
名湯紀行

雲仙温泉

標高700メートルの高原に湧く

雲仙温泉

写真= 笹山 明浩
Photo by Akihiro Sasayama



湯煙がもうもうと立ち上る雲仙温泉。散策路が整備されており、独特な景観を間近で見ることができる。

昭和9年、日本で初めて国立公園の指定を受けた雲仙。夏の平均気温は22℃ほどで、明治から昭和初期にかけて外国人の避暑地として大いににぎわったところだ。

雲仙は、かつて「温泉」と書いて「うんぜん」と読んでいた歴史を持ちます。国立公園指定の際、「温泉温泉」と書くのでは紛らわしいと「雲仙温泉」に改められたのです。その湯は硫黄を含んだ強い酸性泉で温泉療法が盛んなヨーロッパでも見られない温泉だといえます。日本では草津温泉の湯に似ているとか。殺菌効果があるので皮膚病全般に効能があるとされるほか、「美肌の湯」としても知られています。

この地の歴史は古く、僧の行基が「温泉山」を開山したのは1300年余りも前のこと。明治時代にはシーボルトが自身の著書で紹介してその名は世界に知られるように。

1950年代には映画「君の名は」のロケ地となり、主演女優があまりの寒さにシヨールで頭を覆ったスタイル「真知子巻き」が流行しました。その真知子が勤めていたという設定なのが「雲仙観光ホテル」。アルプスの山荘を思わせる赤い屋根、丸太、石組み、

館内の撞球(ビリヤード)室…。高原リゾートに溶け込む「洋」のたたずまいは、さわやかな山の空気と相まって避暑地としてにぎわった往時を思わせます。

一方、ミヤマキリシマなどの花や深緑、紅葉、雪…季節の移ろいを映し出す日本庭園が洗練された和の雰囲気を感じ出す「雲仙宮崎旅館」。露天風呂へ行ってみると、迫ってくるような山々の緑。耳をすませば、鳥のさえずり、すぐそこは雲仙地獄…。日や時間によつてさまざまに色を変えるところは、何度も何度も試してみたくありません。

国立公園なのでボーリングが禁止されている雲仙温泉。各旅館への湯量に限られるため、どの宿でも工夫して大切に使っています。長い間、国内のみならず多くの人を惹きつけてきた雲仙の湯は、今日も標高700メートルの高地にコンコンと湧き出しています。

●プレゼント

「雲仙温泉」のお土産として、雲仙温泉限定「女将のほほえみ」(化粧水・乳液・洗顔フォームのセット)を1名様にごプレゼントします。応募方法は46ページをご覧ください。



■「雲仙観光ホテル」は創業昭和10年。今年のリニューアルでノスタルジックな魅力が増した。☎0957-73-3263



■「雲仙宮崎旅館」は創業昭和4年。部屋やロビーから望む日本庭園や雲仙の山並は四季折々の美しさで訪れる人を魅了する。湯は、雲仙地獄の叫喚地獄、邪見地獄が源泉の掛け流し式。☎0957-73-3331

